

大南「守り継ぐ」という誇り



おおいた市

大分市の南部に位置する大南地区。ここには古くからの町並みや郷土料理、祭りなどが数多く残っています。今回は、地元の「宝物」を大切に守り、受け継がれている大南の魅力を紹介します。



戸次地区のシンボリックな建物 帆足本家酒造蔵

古い町並みを今に残す戸次本町の中心にあり、江戸末期から明治にかけて、繁栄したまちの中心的な存在。日本の伝統技術と西洋から入ってきた技術が用いられた木造建築物で、重厚さとモダンな雰囲気が融合した文化的価値の高い建物です。酒造業の工程がよく分かる建築物として、平成11年に「大分市指定有形文化財」に指定されました。ここでは、仕込蔵や貯酒蔵などを見学することができ、当時の姿を想像すると、ロマンを感じます。

*現在、酒造蔵2階（写真）の見学はできません。



大正ごろの戸次本町通り



昭和30年代の戸次地区



大南まちづくりセンター

大南～「守り継ぐ」という誇り



金子 多美子 さん
町並みガイドグループ
「杏の会」会長

戸次本町は逆境を逆手に取り繁栄した、 たくましいまち。

江戸末期から戦前にかけての貴重な建物が現存し、今も活用されている戸次本町。この町並みの景観は、「戸次本町街なみ環境整備事業」などにより、保全が図られています。通り沿いの「大南まちづくりセンター」には、昔の戸次本町をうかがえる資料が展示されています。ここで観光案内を行っている町並みガイドグループ「杏の会」会長の金子さんに、お話を伺いました。

江戸末期の戸次本町は、大野川沿いの交通の要衝として重視され、山村と都市を結ぶ日向街道筋の「在町（城下町以外で商売が許された村）」としてにぎわいを見せました。この地域は昔から、大野川の洪水に何度も見舞われたのですが、石垣を積み、その上に家を建てることで被害を抑えたり、肥沃な大地を生かして農業を発達させたりと、逆境を逆手に取って繁栄していきます。

明治に入ると、醤油屋や飲食店、呉服屋などさまざまなお店が約80軒ほど並び、まるでデパートのよ

うな通りになります。また、戸次本町の6割の家が養蚕業を営んでいました。「お蚕さん」の仕事は手間が掛かるので季節労働者を雇い、労働者たちはまちに滞在。稼いだお金で家族にお土産を買うので、市にぎわい商売も潤いました。養蚕業でお金の流通が増えたことで、大分銀行の前身でもある「二十三銀行」が戸次本町に開業します。この小さなまちに国立の銀行ができるというのは特別なことで、それだけまちが元気だったということが分かりますね。

まちの中心にある大庄屋「帆足本家」では、豊後南画家の田能村竹田が滞在し絵を描き、帆足杏雨らに影響を与えました。

今も、当時の面影を残した風景があるのはここに住む人たちが「町並みを守り、受け継いでいこう」という強い思いを持ち、まちづくりに取り組んで来たからこそだと思います。まちを案内すると、時々お礼の手紙をいただくことがあります。本当に嬉しいですね。このまちだからできるおもてなしをこれからも続けていきたいと思っています。

